

JSAAE

NEWS LETTER

2007 年

No.34

12 月

Japanese Society of Alternative to Animal Experiments

日本動物実験代替法学会

目 次

1	第6回国際動物実験代替法会議を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2	技術講習会（三次元皮膚モデルの活用）を終えて・・・・・・・・	7
3	2006年日本動物実験代替法学会研究助成報告書提出について・・	8
4	2007年日本動物実験代替法学会研究助成について・・・・・・・・	8
5	2006年度日本動物実験代替法学会 決算報告・・・・・・・・	9
6	2007年度日本動物実験代替法学会 一般会計現況・・・・・・・・	10
9	各委員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・	11
10	日本動物実験代替法学会第21回大会ご案内・・・・・・・・	12

WC6 を終えて

第 6 回国際動物実験代替法会議 会長 大野泰雄

1. 謝辞

第 6 回国際動物実験代替法会議は日本動物実験代替法学会、日本学会議、Alternative Congress Trust (ACT, 日本語では国際動物実験代替法連合と訳した)の主催で、平成 19 年 8 月 21 日(火)から 8 月 25 日(土)までの 5 日間、東京都江東区のホテルイースト 21 で、34 カ国および 1 地域(台湾)より 1,036 人(国外 440 人, 国内 596 人)の参加者を得て、開催され、成功裏に終了することができた。これは、表 1 に示したように、日本動物実験代替法学会を中心とする多数の機関および方々の協力のおかげです。ここに深くお礼を申し上げますとともに、以下に、内容を報告させていただきます。

2. 会議の目的と経緯

ACT は 1) 教育、研究および試験における生命科学研究における動物福祉の向上と動物実験代替法開発を促進すること、2) 科学の進展や生物や疾患への理解を深めるために動物実験が必要であるとの認識を醸成すること、また、3) 科学者と社会とのコミュニケーションを促進することを目的に設立された基金です。ACT は、1) 教育、研究、試験分野における 3Rs (Reduction, Refinement, Replacement)の実現に向けての進展を概観し、2) 動物実験代替法の状況に対する現実的な理解を深め、3)動物を用いる研究が臨床研究や in vitro 試験法とともに、科学の発展をもたらすものであるという理解を醸成し、4) 生物学や疾患に対する我々の基本的な理解に貢献し、並びに 5) 動物保護グループと科学者との間に建設的な議論を行うことを奨励することを目的に、国際動物実験代替法学会 (World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences) を開催してきた。第 1 回は 1993 年にボルチモア(米国)で開催され、それ以来、1996 年にユトレヒト(オランダ)、1999 年にボロニア(イタリア)、2002 年にニューオーリンズ(米国)、2005 年にベルリン(ドイツ)と回を重ねてきた。

日本動物実験代替法学会は、第 1 回会議から日本からの参加や発表の呼びかけを行い、参加者へ

の旅費支援、また、運営委員会への参画等を通じて積極的に協力するとともに、外国の関係者との交流を進めてきた。また、日本開催に向けて準備金を積み立ててきた。これらの基盤の上で、日本開催に向けて立候補し、平成 15 年 11 月開催の ACT 会議で 2007 年に東京で開催することが認められた。それ以来、学会では開催の準備を進めてきた。本会議の開催はアジアでは初めてであったことから、今回の会議では上記の目的を達成するとともに、アジアにおける代替法研究の発展とアジアからの代替法発信をめざし、韓国ならびに中国の関係者にも協力を求めた。日本動物実験代替法学会は以前より市民との対話を重視しており、動物福祉団体や動物実験に反対する団体の代表者をシンポジウムに呼び、対話を行って来た。今回の国際会議においても市民を対象としてセッションを市民公開講座として設けた。

3. 会議の内容

今回の会議では「動物実験代替法開発の促進、3Rs [Reduction (動物実験の削減), Refinement (動物の苦痛軽減), Replacement (動物を用いない方法への置き換え)]のグローバル化並びに科学者と動物福祉活動者との対話」をメインテーマに、プレナリーレクチャーや特別講演(表 3)、また、表 4 に示したように、3Rs の原則に関係する多岐にわたる分野についてシンポジウムが開催された。即ち、動物福祉(Theme 1)、動物使用の道徳、倫理および文化(Theme 2)、3Rs 教育(Theme 3)、知識管理と情報サービス(Theme 4)、トキシコロジーとバリデーション(Theme 5)、環境毒性(Theme 6)、バイオロジクスの開発・生産・品質管理における 3Rs (Theme 7)、新しい科学と技術の 3Rs への応用(Theme 8)、3Rs のグローバル化(Theme 9)、リスクアセスメントと規制(Theme 10)の分野で最新の情報交換が行われた。これらとは別に、メインテーマに掲げた「科学者と動物福祉活動者との対話」のための特別シンポジウムを実施した。レクチャーの総数は 10、シンポジウムの総数は 47 であった。多数のシンポジウムを通して、多岐な分野に研鑽を積むことがで

きた。また、総数 256 のポスター発表や、若手研究者の一般演題 20 など多数の発表を見聞きすることができた。講演会場は 8 会場に分かれていたが、1 階のメイン会場以外はすべて 3 階に集中しており、参加者は興味あるシンポジウムを渡り歩き、時間を有効に使うことができた。また、会場のおちろちらで参加者が熱い討論を繰り返していた。現在、会議の成果は吉村出版委員長を中心に、プロシーディングとしてまとめられている。

会議初日のウェルカムパーティでは動物慰霊祭、会議 3 日目の夕刻の都内観光、4 日目夕刻の晚餐会、その他、同伴者のためのエクスカージョンなど、学術面以外のイベントについても、数多くのボランティアの方々のご協力により、楽しんでいただいた。

なお、会議では外国からの多数のシンポジストに旅費の補助を行うとともに、国内外の若手研究者（約 70 名）に渡航補助を行うとともに、彼らの中から優れた演題に賞を送った。科学委員の投票により 11 名の受賞者が選ばれ、若手研究者にとっては励みになったと思われる。



開会式の会場風景



若手研究者の授賞式の一場面

4. 会議の成果

会議では世界の方々が動物実験代替法に関する最先端の研究成果を発表するとともに、倫理的な動物実験についての発表があった。国内はもとより、海外の参加者からも会議の質が高く、満足したとの声が多く聞かれたのは、大変嬉しかった。我が国の動物実験代替法に向けた熱意を感じ取って頂け、国際社会の中で日本の存在感を示すことができたと感じている。また、我が国のこの分野の科学者が世界の多くの科学者と直接交流することができ、今後の我が国における動物福祉と動物実験代替法開発に関する研究を更に発展させる契機となったと思われる。このような成果は、やむを得ず行う動物実験を用いた医薬品の有効性や安全性の評価、また、生産等に対する社会の同意を得ることに資するものと期待される。

動物福祉や動物実験代替法という分野は日本においてはマイナーであるが、欧米においてはきわめて大きな課題となっている。OECD における安全性試験法ガイドラインの作成においても、動物福祉活動団体が参加するようになっている。今回の会議を日本が主催し、成功させることができたことは今後の我が国の研究者の国際的な活動に資するものと思われる。

5. 市民公開講座

会議最終日の 8 月 25 日(土)午後 2 時から 5 時半まで、ホテルイースト 21 東京の 1 階ホールで「実験動物のためにできること－研究者の立場から－」というテーマで市民公開講座を開催した。これには、総数 214 名(会議に参加していない一般市民が約 8 割を占めた)の方が参加してくれた。これには動物福祉団体のご協力が大きかったと考えま



市民公開講座の会場風景

ま、そこでは、実験動物や動物実験の意義や役割について研究者の意見を聞いて頂くとともに、参加者からの意見や質問に多数答えることができた。質疑応答は予定の時間を大幅に上回り、参加者に満足して頂ける内容となったと考えている。メインテーマの一つである科学者と動物福祉活動者との対話を実現する意義深い内容であったと考える。

6. 会計

先に述べたように日本動物実験代替法学会は会議を招請するにあたり、多額の準備金を用意した。また、ACTは本会議の計画と運営について全面的な協力を行うとともに、極東地域以外の参加者への支援等のため15万ドルの支援してくれた。本会議の企画に際しては、会場費や招待者の旅費、警備費等に多くの費用がかかり、収支が懸念された。国内組織委員会では赤字が出たときには、幹事が連帯して責任を負うとの誓約書を作成し、不退転の決意で準備をすすめた。しかし、我が国内外の多くの機関から多額の寄付をいただいたこと、主催者である日本学術会議から多額の補助金を得たこと、また、予想以上の参加者を得たことから、どうやら赤字を出さずにすんだ。集計結果については、公認会計士の監査を受けた上で、別途報告する予定である。

7. サテライトシンポジウム

本会議とは別に、会議の前に北京とソウルで、会議の後では京都でサテライトシンポジウムが開催された。それぞれは独立採算で、北京はNational Institute for the Control of Pharmaceutical and Biological Products (NICBP)のXing Ruichang 実験動物センター長の主催で「Welfare and Alternatives in Animal Experiments」について、ソウルはソウル大学獣医学部教授で韓国動物実験代替法学会長であるJae-Hak Park ソウル大学獣医学部教授の主催で「New Era of Korean Alternative Research for World Harmonization」について、京都は大阪歯

科大学の今井弘一博士の主催で「New Bioscience for 3Rs Research」について、開催された。北京とソウルは約100名、京都は約50名の参加者を集め、会議が催された。

8. 次回会議への動き

次回会議は、2009年にECVAMのThomas Hartung 所長およびEuropean CommissionのHerman Koetter 博士が会長となり、イタリアのローマにおいて開催される。今回のメインテーマの一つである「動物実験代替法開発の促進、3Rsのグローバル化」は次回会議に引き継がれ、議論が深まると思われる。

9. 最後に

私にとって初めての国際会議の主催であり、多くの不手際があったにも関わらず、会議の準備と当日の運営、その後のフォローアップに多大な時間と労力をかけてご協力いただいたすべての方々に感謝します。特に、国内組織委員会の幹事の方々には大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。また、皇族をお呼びすることにより、日本における動物福祉への熱意を世界に伝えたいと考えましたが、いろいろな行き違いがあり、実現することができなかったことが残念でした。なお、日本学術会議におかれては会議の結果に満足していただき、更に、フォローアップシンポジウムを開催しないかとの提案を受けた。そこで、よりよい動物実験を目指すとともに、市民との交流を深めるため、現在、2月23日の朝10時より午後5時半頃まで、六本木ヒルズ(仮押さえ)で「3Rsに基づく動物実験の規制と第三者認証」のタイトルでシンポジウムを開催する予定です。厚生労働省傘下のヒューマンサイエンス財団は動物実験の第三者認証機関としての準備を進めており、それについての情報も得られることになっています。参加費は無料です。多数の参加者をお待ちしておりますので、希望者は代替法学会のホームページを見て、お申し込みください。

表 1: 第 6 回国際代替法会議 協力団体

主催	日本動物実験代替法学会(JSAAE) 日本学術会議(SCJ) Alternative Congress Trust (ACT)		
協賛学術団体	日本実験動物学会(JALAS) 日本トキシコロジー学会(JST) MMS 研究会(MMS)	日本実験動物医学会(JALAM) 国際トキシコロジー連合(IUTOX) 日本組織培養学会(JTCA)	日本実験動物環境環境研究会(JSLAE) 日本環境変異原学会 (JEMS)
協賛行政機関	環境省(MOE) 文部科学省(MEXT)	経済産業省(METI) 東京都	厚生労働省 (MHLW)
協賛団体	東京観光財団(TCVB)	(独)国際観光振興機構 (JNTO)	日本基金機構

表 2: 第 6 回国際代替法会議組織委員会および運営委員会委員

組織委員会委員		国内組織委員会	(*: 委員長)
大会長	大野泰雄(国立衛研)、 Horst Spielmann(ZEBET)	委員長 事務局	板垣 宏(資生堂) 責任者 小島 肇(事務長, 国立衛研)
大会副会長	田中憲穂(食薬センター)		アジア担当 金子豊蔵(国立衛研)
事務局長	林 真 (国立衛研)		皇室担当 奥村秀信(ノエビア)
秘書長	小島 肇(国立衛研)		松岡厚子(国立衛研)
ACT 委員	Andrew N. Rowan (HSUS), Micael Balls (FRAME), Horst Spielmann (ZEBET), Alan Goldberg (CAAT), Coenraad Hendriksen (Utrecht Univ.)	国際委員会	林 真*(国立衛研)、 久原孝俊(順天堂大) 松田幸久(秋田大)、 若栗 忍(食薬センター)
科学委員会	議長 幹事 委員	会計担当 募金委員会 広報委員会 会場担当委員会 行事・接遇委員会 出版委員会 学術会議委員会 皇室委員会	責任者 秋田正治*(鎌倉女子大)、 岡本裕子(コーセー) 小野 宏*(食薬センター)、 遠藤 仁(杏林大)、 堀井郁夫(ファイザー) 酒井康行*(東大)、 今井弘一(大阪歯大)、 吉山友二(共立薬大)、 竹澤俊明(農業生物資源研)、 秋田正治(鎌倉女子大)、 小島 肇(国立衛研) 林 真*(国立衛研)、 小島 肇(国立衛研)、 猪俣智夫(麻布大)、 北垣雅人(資生堂)、 新井晶子(国立衛研) 岡本裕子*(コーセー)、 小島 肇(国立衛研) 野崎美津世(ノエビア)、 小坂七重(花王)、 石塚典子(鎌倉女子大)、 園 さき子(資生堂)、 寒水孝司(大阪大) 吉村 功*(東京理科大)、 奥村秀信(ノエビア)、 萩野滋延(資生堂) 黒澤 努*(大阪大) 石川幹子(慶応大) 佐藤温重*(昭和) 遠藤 仁(杏林大) 大内淳子(花王) 大田尚子(ポーラ) 二宮博義(麻布大) 吉山友二(共立薬大) 井上 達(国立衛研) 能美健彦(国立衛研) 大和田一雄(産総研) 安居院高志(北大) 池田卓也(日本チャールス・リパー) 海野 隆(シンバイオ) 鈴木崇彦(東大)
サテライトシンポジウム			
北京	Xing Ruichang (会長), Li Genping (事務長)	ソウル	Jae-Hak Kim (会長), Bae-Hwan Kim (事務長)
京都	今井弘一(責任者)		

表3: プリナリーレクチャー等

Animal Welfare Memorial Lecture	Michael Balls (FRAME, UK)	Professor William Russell (1925-2006): Doyen of the Three Rs
Plenary Lecture 1	Makoto Hayashi (NIHS, Japan)	3Rs in Mutation Research from in vivo to in silico Evaluation
Plenary Lecture 2	Paul Flecknell (Newcastle Univ., UK)	Assessment and Alleviation of Pain and Distress of Laboratory Animals
Plenary Lecture 3	Julia Fentem (Unilever, UK)	Exploring New Approachs to Assess Safety without Animal Testing
Plenary Lecture 4	Judy MacArther Clark (IACLAM, USA)	Alternative Research and Practice Supported by International Veterinary Professional such as IACLAM
Special Lecture	Alan Goldberg (Johns Hopkins Univ., USA)	Is the Science of Alternatives-The last 25 years and tomorrow?
Key Note Lecture 1	Baroness Perry of Southwark (House of Lord, UK)	A British Example of Balanced Inquiry into the Ethics of Animal Experiment
Key Note Lecture 2	Horst Spielmann (ZEBET, Germany)	Mission and Accomplishments of ZEBET, the National Center for Alternatives in Germany at the Federal Institute for Risk Assessment (BfR)
Next President Special Lecture	Thomas Hartung (ECVAM)	Globalization of Animal Welfare Concepts Integrated in the Scientific Agenda of International Agencies for Regulatory Risk Assessment

表4 : シンポジウムおよびセミナー

Theme 1	Animal Welfare
1-1	The standard of the rearing environment for laboratory animals and refinement of animal experimentation (supported by JSLAE)
1-2	Alleviations of pain and distress in laboratory animals
1-3	Practical prevention of pain and distress in research using laboratory animals (supported by LALAM)
1-4	3Rs for primate in research
Theme 2	Moral, ethical and cultural issues, and public policies of animal usage
2-1	Genetically engineered animals and the 3Rs: moral responsibility in the generation of new animals
2-2(1)	Ethics committees as an international platform for communication and action on implementation of the 3Rs
2-2(2)	Impacts of policy implementation on trends in animal use in science
2-3	Cultural progress in animal welfare and 3Rs principles in Asian countries
2-4	Public participation in decision-making on animal use in different cultural contexts
Theme 3	3Rs in education
3-1	Meeting learning objectives with non-animal methods
3-2	Alternatives in education all over the world
3-3	New methods for humane education (supported by JALAS)
3-4	Lifelong education and training skills
Theme 4	Knowledge management and information services
4-1	Updates in 3Rs information and services
4-2	New developments in web retrieval technology
4-3	Regulatory requirements for the consideration of alternatives
4-4	Methodology for validation process of alternative assays
Theme 5	Toxicology/Validation
5-1	Alternatives for Acute Systemic Toxicity:
5-2	Research, Development, and Evaluation of Alternatives for Ocular Toxicity (supported by COLIPA)
5-3	Alternatives for Skin irritation/Phototoxicity
5-4	Genotoxicity (supported by JEMES & COLIPA)
5-5	Developmetal and reproductive toxicology
5-6	Research, Development and Evaluation of New Approaches for Predicting Skin Sensitization (supported by COLIPA)
5-7	The LLNA: Developments and Lessons for Alternatives Validation
5-8	Hepatotoxicity/ Nephrotoxicity (supported by JST)
5-9	In silico/(Q)SAR
5-10	Validation
5-11	Endocrine disruptors
5-12	Comet assay (supported by MMS/JEMS)

Theme 6	Ecotoxicology
6-1	In silico and toxicogenomics in ecotoxicology
6-2	In vivo alternative testing in ecotoxicology
Theme 7	The 3Rs in the development, production and quality control of biologicals
7-1	3R's Achievement in vaccine and sera quality control
7-2	3R's Achievement in other biologicals quality control
7-3	Several methods for 3R's in quality control of biologicals
Theme 8	Applying new science and technology from basic research for the 3Rs
8-1	Stem cell science for potential applications in bioassays (supported by JTCA)
8-2	Human cells and tissue models
8-3	3R technologies: Testing systems and imaging
8-4	High-throughput screening
8-5	Omics' technologies, informatics and systems toxicology
8-6	New evaluation technologies for cosmetics (sponsored by Mandom Corp, Japan)
Theme 9	Globalization of 3Rs
9-1	Globalization -Attitudes to severity assessment-
9-2	Globalization -Validation & International cooperation-
Theme 10	Risk assessment approach and regulation
10-1	Risk assessment strategies: new concepts and developments
10-2	Assessment of Animal Health risks and Animal welfare risks
10-3	Linking risk assessment and risk management
Other symposium and session	
	Open symposium for citizens
	Special Symposium: Dialogue with citizens
	Sessions for young scientists
Luncher Seminar	
1	A Laboratory Animal Veterinarian's Perspective on Refinement (supported by Charles River Laboratories Japan)
2	Alternative testing-The intelligent way to REACH compliance (supported by RCC Japan Ltd)
3	The advanced software for comet assay scoring (supported by LMS Co, Ltd)
4	Modelling of the blood-brain barrier in drug discovery and development (supported by NOSAN Corp.)
5	SkinEthic Laboratories, an Alternative to the animal use: Today and prospectives (supported by SkinEthic Laboratories)
6	Demonstrations and applications of Derek for Windows (a toxicity prediction program) and Vitic (a chemically intelligent toxicity database) (supported by Lhasa Ltd)
7	The non-frozen preservation of primary cells (supported by Gene Frontier Corp)

「技術講習会（三次元皮膚モデルの活用）」を終えて

株式会社 資生堂 品質保証センター 鈴木 美絵

2007年11月20日、総会終了後「三次元培養皮膚モデル」の技術講習会が、日本動物実験代替法学会の企画委員会運営により14時から開催されました。場所は共立薬科大学臨床薬学講座の吉山友二先生のお取り計らいにより共立薬科大学1号館B1階マルチメディア講堂をお借りすることができました。企画委員会の初動が遅く、告知が遅れたにもかかわらず、告知と同時に非常に多くの方々からのお問い合わせをいただき、大変ありがたく感じました。この場をお借りしてご出席いただいた方々に、心よりお礼申し上げます。

講習会は奥村秀信先生と小島肇先生に座長をお

願いし、まず板垣宏会長からご挨拶いただき、次に国際動物実験代替法会議(WC6)の開催報告が大野泰雄先生からなされ、盛会に終了したWC6の様子、日本動物実験代替法学会の多大な貢献、さらに2009年にイタリアのローマで開催予定のWC7などについてお話をいただきました。

さて今回のテーマである「三次元培養皮膚モデルの活用」の講演は、三次元培養皮膚そのものの作製から、利用法、さらに試験法の活用に至るまで非常に幅広いものとなり、全体として多くの方々のご興味をひく内容であったのではないかと思っております。具体的な講演内容としては、城

西大学の杉林堅次先生に経皮吸収検討のご講演をしていただき、薬物や化粧品の皮膚透過を考える上で非常に有効な考え方を示していただきました。国立医薬品食品衛生研究所の小島肇先生からは、直接ヨーロッパで得られた最新情報を交え、今後の皮膚刺激の動向を講演していただき、三次元皮膚モデルを用いた皮膚腐食性試験代替法や皮膚刺激性試験法などについて現状とともに問題点も挙げていただきました。資生堂の天野聡先生からは、三次元培養皮膚モデルの作製方法、またそれを用いた薬剤の有効評価を講演していただき、皮膚そのものの理解も深めることができました。それぞれの先生方のご講演後には会場から活発な質問がなされ、非常に有意義な講演会であったのではないかと自負しております。培養皮膚モデルの利用は、動物愛護の観点や倫理的な観点からも非常に注目されるようになって考えられます。しかしながら、三次元皮膚モデルはすでに完成したとは言いがたいのが現状です。こ

のような技術講演会を通じて三次元培養皮膚の知識が深まり、これをきっかけに、さらに良いものへと改良・発展することができれば非常に幸いです。

今後、本学会ではこのような技術講習会を開催していきたいと考えております！講習会を開催してほしい」などのご意見がございましたら、是非とも学会事務局のアドレス (gakkai@g-jimukyoku.jp)までご連絡ください。本技術講習会は、会員の皆様が本当に知りたいことを提供させていただくことを目的としております。皆さまからのご意見をお待ちしております。

最後になりましたが、多くの先生方のおかげでこの技術講習会を無事終了することができましたことを非常に感謝しております。深くお礼申し上げます。

もし、会員の先生方でAATEX原稿を頂戴できれば大変助かります。

2006年日本動物実験代替法学会研究助成報告書提出について(現状報告)

企画委員長：秋田 正治

2006年本学会研究助成金は、国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 薬理部新規試験法評価室の小島 肇様に交付いたしました。規定通り、昨年、第6回国際動物実験代替法

学会にご発表いただいております。報告書につきましては、次号 No.35 に掲載させていただく予定です。

2007年日本動物実験代替法学会研究助成について(報告)

企画委員長：秋田 正治

2007年本学会研究助成公募は、2007年9月23日で締め切らせていただきました。今年は多数の応募をいただきました。厳正な審査の結果、本年研究助成交付は次のように決定いたしましたのでご報告申し上げます。

記

研究助成交付者：東京大学大学院工学系研究科バ

イオエンジニアリング専攻 メカノバイオエンジニアリング分野 機械工学専攻・准教授
古川 克子

研究課題：血液適合性材料の動物実験代替手法の開発および評価

交付金額：100万円

以上

2006年 日本動物実験代替法学会 決算報告

収入(円)			支出(円)		
項目	予算額	執行額	項目	予算額	執行額
繰越金	3,500,000	2,278,215	特別事業		
年会費収入			研究助成	1,000,000	1,000,000
計5,000円×300名	1,500,000	1,434,822	論文賞	100,000	100,000
新入会費収入			学会賞		0
2,000円×20名	40,000	58,000	大会開催補助	1,000,000	1,000,000
賛助会費収入			共同研究経費(バリデーション)	100,000	0
特別賛助会員			編集関連費用		
500,000円×6口	3,000,000	2,500,000	学会誌発行費用	1,200,000	1,226,880
一般賛助会員			ニュースレター発行費用	250,000	0
50,000円×10口	500,000	600,000	ホームページ関連費用	30,000	0
法人会員			国際学会関係		
100,000円×4口	400,000	300,000	海外発表者助成費用	1,500,000	0
雑収入			各委員会経費		
銀行利子	1,000	4,968	企画委員会	100,000	0
別刷追加代	100,000	0	国際交流委員会	50,000	0
雑誌購読料		71,000	財務委員会	50,000	0
その他		20,566	規約改定委員会	50,000	0
個人寄附金		200,000	バリデーション委員会	100,000	97,727
			評価委員会	50,000	0
			広報委員会	50,000	258,090
			学会運営費用		
			庶務・会計幹事費用	10,000	0
			会議費	50,000	13,449
			旅費・交通費	200,000	54,000
			学会事務局費用	1,000,000	849,115
			振込手数料	10,000	8,009
			予備費	2,141,000	2,841,791
合計	9,041,000	7,449,061	合計	9,041,000	7,449,061

2006年 特別会計 決算報告

項目	金額(円)	内訳
収入の部		
	2,992,500	2005年繰越金
	2,992,500	2006年厚生科学研究費
	641,437	厚生科学研究班事務局からの振込
収入合計	6,626,437	
支出の部		
	¥3,681,292	実験器具・備品代
	¥2,605,019	実験動物代
	¥89,560	宅配送料
	¥4,772	振込手数料
	¥2,041	その他
支出合計	¥6,382,684	
差引残高	243,753	2007年特別会計へ繰越

日本動物実験代替法学会2006年決算報告に関して会計監査を実施しましたところ、適正に執行及び記録がなされていることを確認致しましたのでここに報告致します。

日本動物実験代替法学会
会計監査

氏名

小野 宏



日付

2007年8月15日

2007年度 日本動物実験代替法学会 一般会計現況

収入			支出		
項目	予算(円)	執行額(円)	項目	予算(円)	執行額(円)
*繰越金	4,500,000	2,841,791	特別事業		
年会費収入			研究助成	1,000,000	1,000,000
	1,500,000	1,394,663	論文賞	100,000	0
新入会費収入	40,000	44,000	国際学会発表促進	600,000	600,000
賛助会費収入			大会助成	0	0
特別賛助			学会賞費用	100,000	100,000
	2,500,000	5,000,000	学会セミナー(総会含)	500,000	500,000
一般賛助			編集関連費用		
法人賛助	750,000	600,000	学会誌発行費用	1,200,000	1,200,000
	300,000	400,000	ニュースレター発行費用	250,000	120,000
雑収入(別刷り/雑誌)	60,000	110,128	ホームページ関連費用	1,500,000	500,000
酒井先生/06年度大会 余剰金寄付		1,000,000	国際学会関連		
オンライン使用量		5,000	国際会議役員派遣費用	250,000	0
利子		3,870	各委員会経費		
			企画委員会	50,000	100,000
			国際交流委員会	0	0
			財務委員会	50,000	0
			広報委員会	50,000	100,000
			バリデーション委員会	100,000	100,000
			編集委員会	50,000	50,000
			学会運営費用		
			総務・会計幹事費用	100,000	29,387
			会議費	50,000	5,492
			旅費/交通費	200,000	56,000
			学会事務局費用	900,000	625,935
			振り込み手数料	10,000	3,990
			予備費	2,590,000	6,308,648
合計	9,650,000	11,399,452	合計	9,650,000	11,399,452

2007年11月14日現在

作成:会計 岡本裕子

各委員会報告

企画委員会報告

委員長 秋田 正治

活動報告：

- 3月 : 第1回委員会打ち合わせ開催(於：鎌倉女子大学)
- 8月 : WC6 会期中における JSAAE 展示ブースの出展(広報委員会との共同企画)
- 8月～9月 : 2007年研究助成の公募
- 10月 : 2007年研究助成の審査・決定・交付
- 8月～12月 : マンダム動物実験代替法国際研究助成金公募
- 11月 : 技術講習会「3次元培養皮膚モデルの活用」開催(於：共立薬科大学)

2008年は、新たに研究情報公開(講演)、中高生及び教師等に対する啓蒙活動などを行い、学会の活動領域を拡大して行く予定です。さらに、第2回技術講習会の開催も計画中です。これら様々な活動情報は、メールニュースおよびホームページにて会員の皆様に配信させていただきますので、どうぞご期待ください。

また、マンダム動物実験代替法国際研究助成金公募は、2007年12月31日で締め切りました。多くのご応募いただきお礼申し上げます。

編集委員会報告

委員長 今井 弘一

平成19年度(1月から12月まで)

<既発刊>

AATEX Vol.12 Supplement発刊(1月,66-144頁)

AATEX Vol.12 No.2発刊(3月,145-201頁)

<発刊予定>

AATEX Vol.12 No.3発刊(202頁-, 編集中)

<ジャーナルの電子化>

Google Scholar(グーグルスカラー)に登録されています(Googleが力を入れていますのでやがて世界一の文献検索サイトになるかも知れません)。医学中央雑誌(医中誌)に登録し、すでに検索されます。メディカルオンラインで電子化されています。CiNiiは交渉中です。

平成20年度

AATEX Vol.13 No.1発刊予定(現在査読中)

AATEX Vol.13 No.2発刊予定

AATEX Vol.13 No.3発刊予定

なお、AATEX SupplementまたはAATEX Special Volumeの形で、WC6のproceedingsが吉村 功先生が委員長のプロシーディング委員会から発刊されると考えます。

<ジャーナルの電子化>

J-Stageへの登録、PubMedへの登録に努力します。

会員の先生方でAATEXにご投稿願えれば大変助かります。

バリデーション委員会報告

委員長 大森 崇

バリデーション委員会が2007年に関与した研究は、昨年からの引き続きである以下の2つの研

究である。

(1) 皮膚感作性試験(LLNA-DA法)

(2) 皮膚感作性試験 (LLNA-BrdU 法)

これらは旧評価委員会からの依頼という形でバリデーション委員会が引き受け、研究を実施するものからなる実行委員会を構成し、研究を遂行している。実行委員会には、バリデーション委員会から数人この実行委員会に参加することで研究の進行状況を把握するようにしている。

(1)については、実行委員会から研究結果に関する報告が提出され、報告書を委員内で確認した後、

会長に提出した。現在、旧評価委員会で評価作業が行われている。

(2)については、今年の3月に実行委員会が開催され、研究結果の検討が行われた。施設間での結果の再現性がよくなかったため、実験手順書の見直しが必要という結論に至った。その後、実験手順書が見直され、確認のための予備的な検討が実施された。この結果を受けて、現在、2度目のバリデーション研究が行われている。

広報委員会報告

委員長 吉山 友二

2007年度の最大の課題をホームページの改訂とし、委員会でホームページ改訂のコンセンサスを討議した。邦文および英文ホームページともに改訂がなされ、国際動物実験代替法会議(WC6)開催前に運用を開始した。ホームページの更新は適宜なされるので、会員諸氏のホームページの積極的な利用をお願いしたい。

ニュースレターNo. 33を7月に発行し、国際動物実験代替法会議(WC6)の直前情報を含めた情報を発信した。現在、ニュースレターNo. 34発行の準備を進めており、年2回の発行を維持してい

る。なお、会員諸氏への早急な関連情報の共有化をはかるため、メールによるニュースを適宜発信している。

2008年度は能動的な情報発信を目指し、新聞あるいは雑誌に掲載された代替法や動物実験に関連する記事の情報として、HPの刷新情報、研究助成やバリデーションの公募、学会の情報など月に1-2度は何か会員に情報を流すように努めたいと考えている。良き広報活動により会員と学会を上手につなぎ、身近に学会を感じて頂き、会員増にも貢献したいと考えている。

日本動物実験代替法学会第21回大会ご案内

日時：2008年11月13日(木)～14日(金)
会場：埼玉会館
〒330-8518 さいたま市浦和区高砂 3-1-4
電話 048-829-2471
JR京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分
上野駅から各駅停車で27分
大宮駅から各駅停車で8分
大会長：城西大学 生命科学センター / 薬学部
杉林堅次

特別講演とシンポジウム(共に口頭発表)、さらに

一般講演(ポスター発表)を予定しております。いまのところ詳細は決定しておりません。次号のニュースレターで詳細をご連絡いたします。



編集後記

2007 年は、第 6 回国際動物実験代替法会議[6th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (WC6)]という一大イベントがございました。この成果をニュースレターに盛り込むために、発行が遅れましたことを心よりお詫び申し上げます。又、編集期間の都合上、掲載内容を 12 月までといたしましたことをご了承いただきたく宜しくお願い申し上げます。

広報委員会

委員長 吉山 友二

日本動物実験代替法学会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-2-4 浅井ビル 501 号室 学会事務局

TEL:03-3811-3666 FAX:03-3811-0676

E-mail : gakkai@g-jimukyoku.jp

発行：日本動物実験代替法学会

会長：板垣 宏

担当：広報委員会 委員長 吉山 友二

学校法人 共立薬科大学 臨床薬学教室

〒105-8512 東京都港区芝公園一丁目 5 番 30

TEL:03-5400-2667 FAX:03-3434-5343

E-mail: yoshiyama-yj@kyoritsu-ph.ac.jp